

未来ビジョンの対象地区・期間

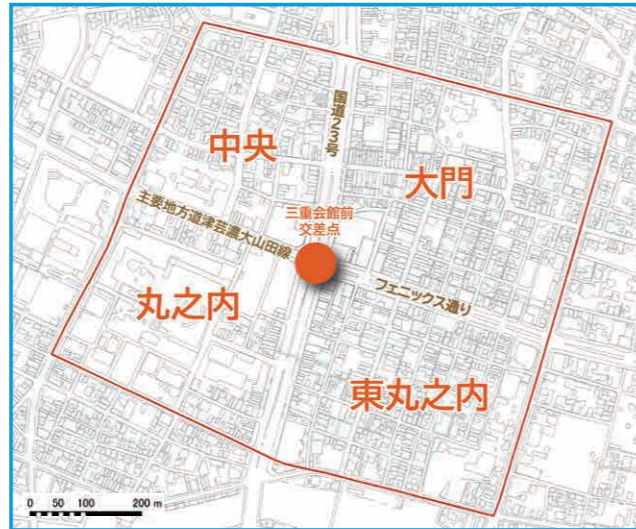
津市大門・丸之内地区未来ビジョンは、次の地区を対象とし、おおむね20年先を見据えたまちづくりの構想を描きます。

対象地区

バスターミナルのある三重会館前交差点を中心に、徒歩圏域である大門、丸之内、東丸之内、中央地区のおおむね半径500mの範囲(約58ha)

期間

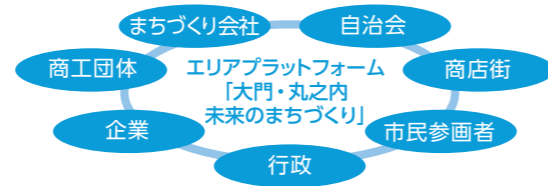
令和5年度(2023年度)からおおむね20年間
※社会情勢の変化や事業の推進状況に応じて、未来ビジョンの見直しを行います。



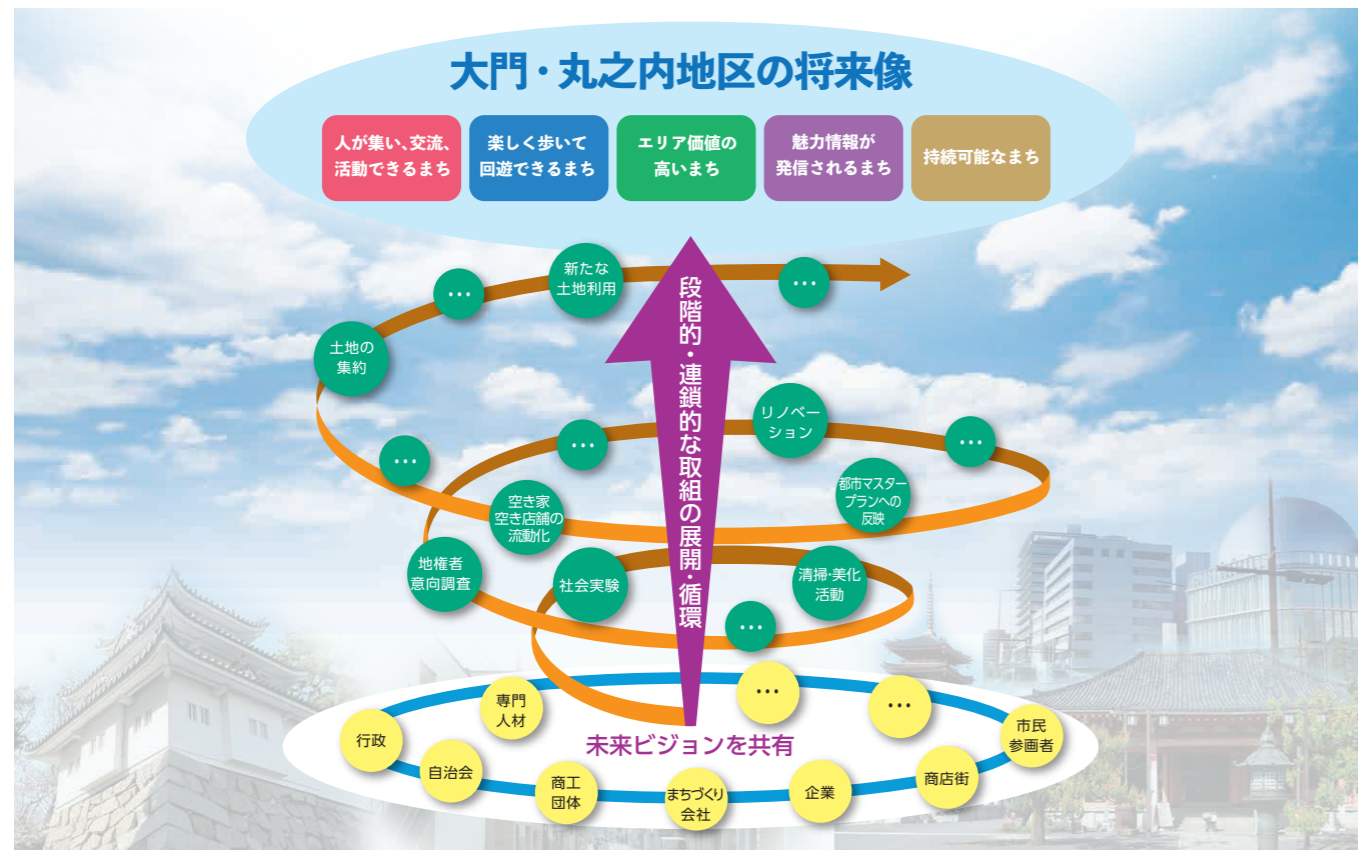
まちづくりの推進体制

官民の多様な主体が、まちの将来像の実現に向けて協議・調整を行うための場が「エリアプラットフォーム」です。

大門・丸之内地区では、様々な関係者が参画するエリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」が活動基盤となり、将来像の実現に向けた目標に沿って未来ビジョンに基づく取組を推進します。



未来ビジョン実現に向けた進め方のイメージ



津市大門・丸之内地区 未来ビジョン

令和5年(2023年)3月

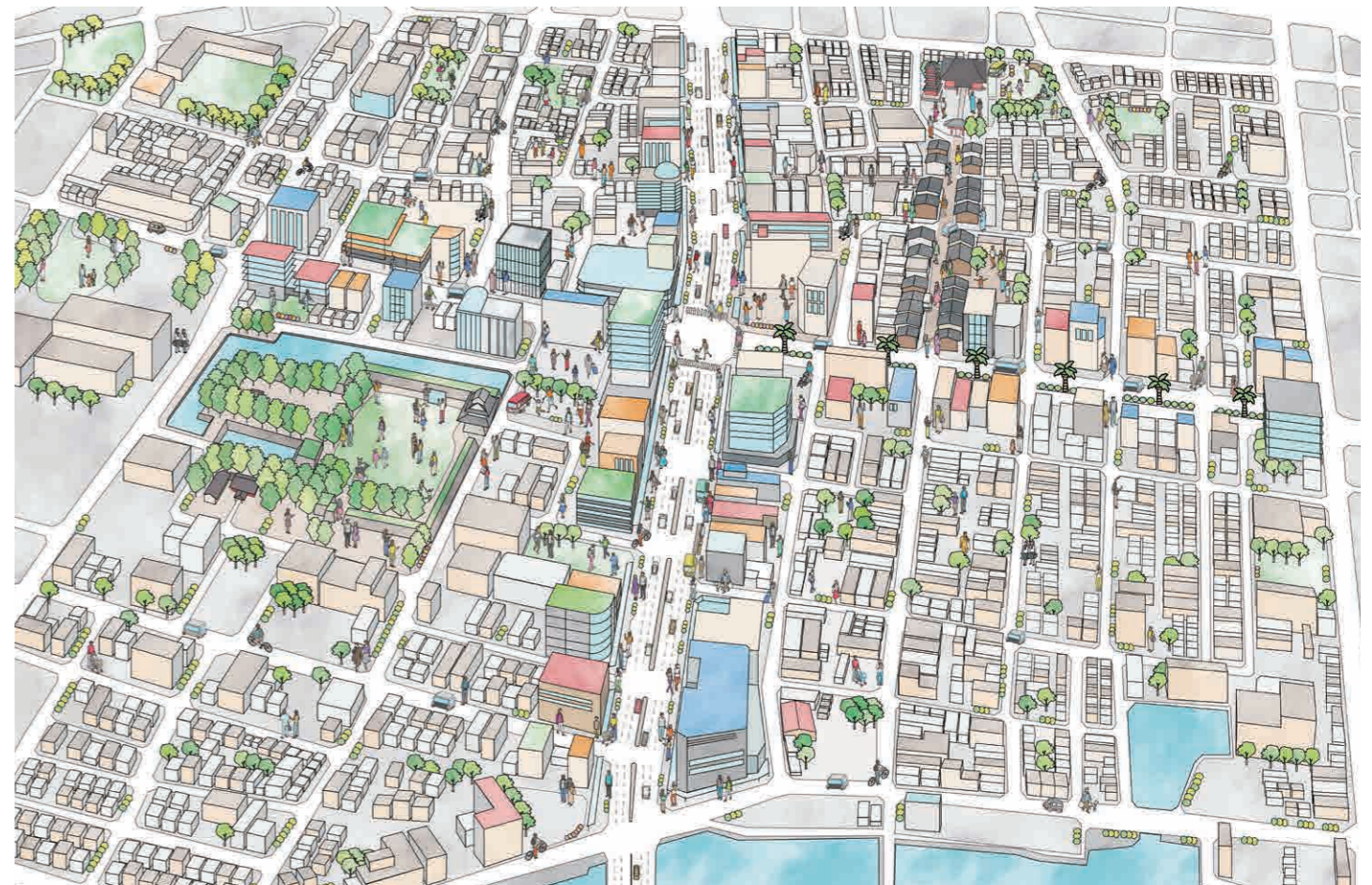
策定: エリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」
事務局: 津市都市計画部都市政策課・商工観光部商業振興労政課

津市 大門・丸之内地区 未来ビジョン

概要版

大門・丸之内地区において、官民の多様な関係者が、これから目指すべき将来像を共有し、その実現に向けて連携してまちづくりを進めるため、大門・丸之内地区の未来ビジョンを策定しました。

大門・丸之内地区の将来像



- 津城跡や観音寺、伊勢街道などの歴史・文化資源が活用され、来訪者が楽しめるとともに、市民が誇りを持てる場所になっています。
- 新たな事業所や多様な働き方に対応したオフィスができるなど、津市におけるビジネスの中心地となっています。
- 店舗のリノベーションや建替が進み、豊富な交流施設や公園、道路空間で市民による活動が行われ、働く人や買い物客、多様な市民でにぎわうまちになっています。
- エリア内の各拠点を回遊する仕組みが構築され、津駅や津新町駅、津インターチェンジ、津なぎさまちと新たな移動手段で結ばれるなど、他地区との連携も強化されています。
- 安全・安心なまちづくりの取組が進み、居心地のいい空間で構成された、全ての人にとって住みやすいエリアとなっています。
- まちの変化に合わせて新たな土地活用が進むなど、民間による投資が活発化し、新技術が積極的に導入されたまちづくりが進められています。
- 官民が一体となった取組が継続され、地域の魅力が多様な手段で広く発信されています。

将来像の実現に向けた取組姿勢

まちづくりを進める過程では、困難に直面し、振り返りながらも、歩みを止めることなく総力を結集して進み続ける必要があります。これまで紡ぎ上げてきたまちの歴史と文化を未来へとつなげ、関係する人が連携してつながり、こころを一つにしてまちづくりを推進するため、地区の取組姿勢を

挑戦しつづける 大門・丸之内 とします。

目標とまちづくりの方針

目標 1

人が集い、交流、活動できるまち

目標 2

楽しく歩いて回遊できるまち

目標 3

エリア価値の高いまち

目標 4

魅力情報が発信されるまち

目標 5

持続可能なまち

それぞれの目標に基づくまちづくりの方針を定めるとともに、目標を実現するための具体的な施策例を示します。また、将来像の実現に向けた取組を確実なものにするため、特に優先的、重点的、横断的に取り組むべき施策をリーディングプロジェクトとして先導的に実施し、目標達成への道筋を示します。

目標 1 人が集い、交流、活動できるまち



事業所などが新たに立地し、日常的な滞在者が増加するとともに、数々の商店や老舗の名店は市内外からの来訪者でにぎわい、豊富な交流施設や公園、道路空間を活用して市民が活動し、津城跡や観音寺などの歴史資源には市内外から観光客が来訪するなど、多様な人が集い、交流、活動できるまちをめざします。

目標に基づくまちづくりの方針

人が集い、交流、活動できるまちを実現するため、多様な世代の住民・来訪者による地域資源や地区の強みを活かした様々な活動を推進する。

方針に基づく施策例

- 大門・丸之内らしさで盛り上げる。
- 居心地のいい空間をつくる。
- イベントで人を呼ぶ。
- 新しい店舗や事業者を増やす。

Leading Project

リーディングプロジェクト

お城公園、お城前公園、観音公園、津市まん中広場などの活用

目標 2 楽しく歩いて回遊できるまち



三重県の大動脈である国道23号、津なぎさまちから津インターチェンジを結ぶフェニックス通り及び主要地方道津芸濃大山田線、そしてその結節点であり、バスターミナルとして多くの乗降客がある三重会館前交差点。津の交通の要衝であり、日常的に行き交う人々を地区内に導きます。また、伊勢街道や国道23号の広い歩道空間も活用し、新技術も積極的に導入しながら、まちに集まる人々がエリア内にある魅力的な資源や空間を回遊できるまちをめざします。

目標に基づくまちづくりの方針

楽しく歩いて回遊できるまちを実現するため、道路空間の有効活用や新技術の積極的な導入を推進する。

方針に基づく施策例

- 道路空間を活用する。
- 大門・丸之内らしさで盛り上げる。
- イベントで人を呼ぶ。
- 店舗を活性化させる。
- 移動しやすくする。

Leading Project

リーディングプロジェクト

立町・大門大通り、国道23号の活用
新たな移動手段の導入

目標 3 エリア価値の高いまち



空き地、空き家、空き店舗の活用やエリア内に多く存在する歴史資源などの魅力向上を進めるとともに、生活利便性の改善など、暮らす場としての機能向上に取り組みます。さらに、長期的には土地の集約などにより新たな土地活用を図り、エリアの全体の価値を高めるまちをめざします。

目標に基づくまちづくりの方針

エリア価値の高いまちを実現するため、地域らしさを楽しめる満足度の高い空間形成を図り、暮らしの場としての魅力・機能を高めるとともに、土地・建物の在り方の見直しを進める。

方針に基づく施策例

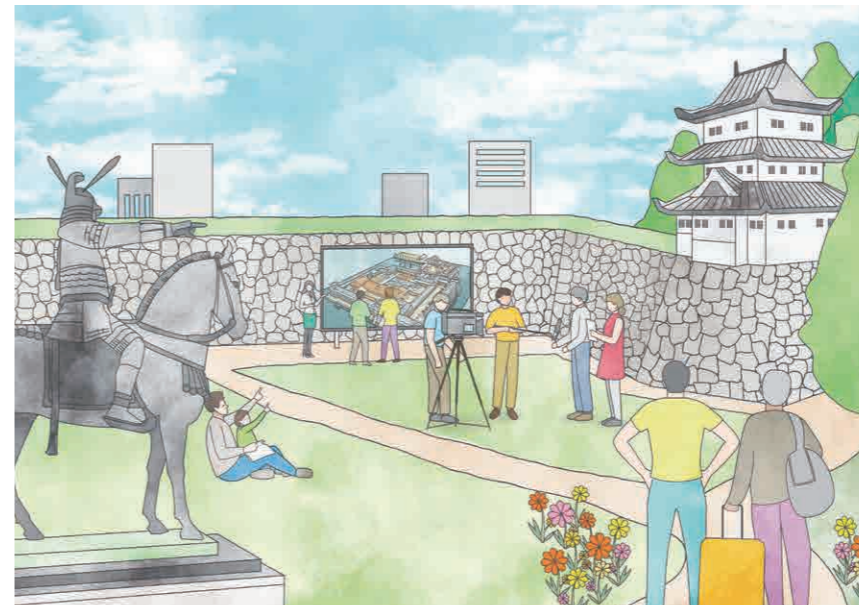
- 暮らしやすいまちにする。
- 新しい店舗や事業者を増やす。
- 住む人を増やす。
- 居心地のいい空間をつくる。
- 土地の使い方を変える。
- 大門・丸之内らしさで盛り上げる。

Leading Project

リーディングプロジェクト

空き地・空き家・空き店舗の活用

目標 4 魅力情報が発信されるまち



地区内外の人々が大門・丸之内地区の情報を目にする機会を増やすとともに、市民が地区への関心を持ち、誇りを持つよう、地域が一体となって魅力の発掘や地区の情報発信に努め、地区の魅力が広がるまちをめざします。

目標に基づくまちづくりの方針

魅力情報が発信されるまちを実現するため、エリア内外の多様な主体による様々な媒体を活用した情報発信を進める。

方針に基づく施策例

- 地域が主体的・継続的にまちづくりを進める。
- 店舗を活性化させる。
- 大門・丸之内らしさで盛り上げる。
- エリアのイメージをアップさせる。
- 移動しやすくする。

Leading Project

リーディングプロジェクト

地域が一体となった情報発信

目標 5 持続可能なまち



防災対策や防犯対策に取り組み、安全・安心な環境づくりを進めるとともに、未来ビジョンの実現に向けて、エリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」が中心となり、官民が一体となって主体的かつ継続的にまちづくりに取り組むことにより、持続可能なまちをめざします。

目標に基づくまちづくりの方針

持続可能なまちを実現するため、安全・安心な環境づくりを進めるとともに、将来像の実現に向けて地区内外の様々な関係者による主体的・継続的なまちづくりを推進する。

方針に基づく施策例

- 地域が主体的・継続的にまちづくりを進める。
- 暮らしやすいまちにする。
- エリアのイメージをアップさせる。
- 児童・生徒・学生に親しみを持ってもらう。

Leading Project

リーディングプロジェクト

清潔な空間づくり、安全・安心なまちづくり